

医療用具コンタクトレンズの 『ヤマト』沈没ス！！

船が沈みゆくとき、ネズミはいち早く逃げ出そうとし、あるネズミは行がけの駄賃をもらおうと画策する。もちろん、逃げずに甘い汁にあずかろうと船にしがみつくネズミも出てこよう。沈みかけの船を手に入れて、ひと儲けを企てるハイエナファンド。そのハイエナに金を出して高利回りの配当を期待する輩も少なくない。しかし、問題はターゲットになっている企業の性格である。医療用具、コンタクトレンズ、医療機器など、「国民の目の健康」に関する企業を買い取って「ひと儲け」してもかまわないのだろうか？

何か、モラル上の問題だけとは思えないのだが……。

『エルコン』のヤマト樹脂光学（株）が破産した。

コンタクトレンズ事業部は8月11日付で医療系投資会社（株）キャピタルメディカに事業継承されている。

破産したヤマト樹脂光学は資本金約4億9000万円、平成17年度の売上高は52,571百万円、平成18年度の売上高は76,892百万円にのぼった、という。売上の増加ぶりをみても分かるように、相当な急成長会社だ。急成長企業はともすれば地盤固めがしっかりしていないので「危ない企業」でもある。代表取締役はワイズ編集部で「久保村のママ」と親しみを込めて呼ばせてもらっていた久保村廣子女史。

コンタクトレンズの取材を通してお近づきになったが、ある日「久保村のママ」から「ワイズさんは中曽根康弘先生の派閥

ですね、私のところも中曽根派です」とご挨拶があった。

ワイズは、中曽根康弘先生は「総理」というより「大統領」のウツワという感じがして尊敬はしていたものの、中曽根派というほどではない。ただ、ワイズを出版している法人の大株主に中曽根康弘先生の秘書をされていた自民党の暴れん坊、島村宣伸先生の親友が役員でおられて、そのご縁で、議員会館でよく先生のお話を拝聴させていただいた。

「久保村のママ」から「今度、新鋭工場竣工のセレモニーがありますか？」とのお誘いをうけ、カメラマンと記者をつれて長野県上伊那郡箕輪村東河原までお祝いに駆けつけた。

竣工パーティーで「叔父です」と紹介されたのはK A（株）の向山参議院議員、議員の奥方は上品で、気さくで、気づかい

上手、先の皇后陛下によく似た印象。「遠いところ、よくおいでになりました。ここでしか食べられないものがございますから、私が取ってきましょう」と持ってきていただいたお皿には本当に珍しい、「蜂の子」がのっていた。

「従兄妹です」と紹介されたのは宮下創平(元)厚生大臣。

「久保村のママ」はこの地域の華麗な一族であった。

宮下創平先生(昭和2年11月10日生)は、当時はまだ厚生大臣ではない。しかし、珍しい「創平」という名前は宮下先生の父親が尊敬する石丸悟平教授の「平」と教授が主宰する雑誌『人生創造』の「創」の字をとって命名されたもの。宮下創平先生は昭和24年東大法学部、大蔵省主計局のキャリア組。佐藤内閣の堀茂官房長官秘書官、平成3年11月防衛庁長官、平成6年8月環境庁長官、

厚生大臣になるのは平成10年の7月である。

その宮下創平先生、平成15年8月体調不良により衆議院選挙を不出馬表明。

平成15年11月、ご子息の宮下一郎氏が108,567票を得て、衆議院総選挙において、父の代わりに初当選を果たす。

現在、宮下創平(元)厚生大臣の東京の事務所はヤマト樹脂光学(株)と歩いて10秒程度のビルにある。

そして、その同じビルのなかに「防衛医科大学」眼科学教授・防衛医科大学病院眼科部長だった沖坂重邦先生の「眼病理研究所」が置かれている。ヤマト樹脂光学のT・A取締役本部長とK・T企画推進本部長によれば沖坂重邦先生は『眼病理学の寺子

屋』を開いていて「真面目な勉強会ですよ」ということである。だが、沖坂重邦先生の退官後の「クリニック開設時には相当な額の援助をさせられた」と、苦々しげな表情で語った。

いったい沖坂重邦先生ともあろう方が、なぜこのような言われ方をされてしまうのか、まことに不可思議としか言いようがない。

さて、警視庁は久保村廣子代表取締役を贈賄で逮捕。国立身体障害者リハビリテーションセンターの築島謙次部長は収賄で逮捕された。

今回の逮捕に至ったのは国立身体障害者リハビリテーションセンター(埼玉県所沢市)発注の医療機器をめぐる事件だが、贈賄側の「ヤマト樹脂光学」は「防衛医科大学」の複数の競争入札で予定価格に極めて近い価格で落札していた。この顛末はこうである。平成16年2月、「防衛医大」が発注した「眼科用YAGレーザー装置」を他社が823万2000円で入札しているときに「ヤマト樹脂光学」は防衛医大の購入予定価格と同じ499万2750円で落札したことにはじまり、次に「3CCDカラーカメラシステム」を防衛医大の購入予定価格の99.7%で落札。18年度には「カラーFAG・ICG撮影システム」を同じく購入予定価格の99.7%で落札していた。

その結果、ヤマト樹脂光学は防衛医大と防衛医大病院から平成15年~19年にかけて2億6947万円の医療機器を受注していた。

どうも、ヤマト樹脂光学の「贈収賄ビジネス」はこればかりではなさそうだ。昨年、

発覚した仙台の東北大学病院の入札工事の随意契約問題、東北大学眼科の「エキシマレーザー手術室の工事改修計画」を知りえたヤマト樹脂光学は、「東北大学の試算では工事費1億円としているが、診察室なら坪40万円、手術室でも坪80～100万円できる」として、実際の計画は26.6坪なので、「およそ2000万円程度で済みます」と、東北大学側に進言している。

ここで、非常に興味深いのは、東北大学眼科はなぜヤマト樹脂光学に「エキシマレーザー手術室の工事改修計画」について知らせたのか？また、「東北大学の試算では工事費1億円」であることをなぜヤマト樹脂光学が知り得たのか？という点である。

実際に動いたのはヤマト樹脂光学の仙台の支部長である。この段階で久保村廣子代表取締役が指示したかどうかは定かではない。しかし、東北大学側は、仙台支部長を通じてヤマト樹脂光学に「建築業者に話をつないで見積もりを出してくれるように」要請している。

ヤマト樹脂光学側は株小田原工務店を東北大学に紹介する。

ヤマト樹脂光学のT・A取締役本部長とK・T企画推進本部長によれば、その後もヤマト樹脂光学の仙台支部長は東北大学と株小田原工務店の打ち合わせの席に何度も同席していた、という。ともかく、東北大学は2006年8月頃、かぶ小田原工務店に「エキシマレーザー手術室の改修工事」を発注する。

ヤマト樹脂光学のT・A取締役本部長とK・T企画推進本部長は東北大学と(株)小田原工務店の「エキシマレーザー手術室の改修工事」の件は仙台本部長が会社に何

も報告せず独断で勝手におこなったもので、ヤマト樹脂光学は何も知らされてなかった、と主張する。

しかし、お客様の東北大学側からは「建築業者に話をつないで見積もりを出してくれるように」と要請。つまりは、大学というお客様からの「注文のようなもの」があるにもかかわらず、「ヤマト樹脂光学」は「何も知らず」、自社の仙台支部長から「何も知らされてなかった」というには無理がある。そこにはシラをきったほうが都合のよい何かがあると考えても不自然ではない。

2006年9月9日、(株)小田原工務店は「ヤマト樹脂光学」にたいして東北大学の追加工事分として948万8201円の見積り兼請求書を発行する。つまり、(株)小田原工務店の理解は、東北大学の工事は「ヤマト樹脂光学」が東北大学から受注したもので、「ヤマト樹脂光学」に見積もり請求書を出すのは当然と考えている。それもヤマト樹脂光学仙台支部長、東北大学側と何度も打ち合わせているのなら無理はない。その見積り兼請求書はどうなったのか？

ヤマト樹脂光学のT・A取締役本部長とK・T企画推進本部長によればヤマト樹脂光学の仙台支部長はその見積書を社内稟議・決済を得ることなく、支払予定表に密かに登録した、というのだ。

何ともミステリーじみた話だが、その後も東北大学側から追加工事、設計変更が相次ぎ、請求書の金額変更も重なり、仙台支部長は密かに登録した948万8201円の見積り兼請求書を消去した、という。

つづく